

(様式第1号)

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成29年度)

施設 の 名 称	宮城県母子・父子福祉センター
指 定 管 理 者 の 名 称	公益財団法人宮城県母子福祉連合会
施 設 所 管 部 課 ( 室 )	保健福祉部子ども・家庭支援課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成21年4月 ~ 平成24年3月	指定管理	財団法人宮城県母子福祉連合会	
平成24年4月 ~ 平成27年3月	指定管理	公益財団法人宮城県母子福祉連合会	H25.4から公益
平成27年4月 ~ 平成32年3月	指定管理	公益財団法人宮城県母子福祉連合会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	公益財団法人宮城県母子福祉連合会
	所在地	仙台市宮城野区安養寺3丁目7番3号
指 定 期 間	平成27年4月1日 ~ 平成32年3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	■ 公募 □ 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県母子・父子福祉センター	
所 在 地	仙台市宮城野区安養寺3丁目7番3号	
設 置 年 月	昭和55年4月	
根 拠 条 例 等	母子及び父子並びに寡婦福祉法, 母子父子家庭の母・父の就業支援特別措置法, 母子・父子福祉センター条例	
設 置 目 的	各種相談, 生活指導及び就業支援など母子家庭等の福祉増進のための便宜を総合的に供与することを目的としている。	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	3,469.25 m <sup>2</sup>
	構 造	鉄筋コンクリート3階建て
内 容	会議室, 事務室, 応接室, 保育室, 相談室, 倉庫, 食堂, 講習室 (厨房, 浴室, 調理室, 談話室等は休止している)	
開 館 ( 所 ) 日	次に掲げる休業日を除く日 休業日: 火曜日, 土曜日, 国民の祝日に関する法律に規定する休日及び12月29日から翌年の1月3日まで	
開 館 ( 所 ) 時 間	午前9時00分 ~ 午後5時00分	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	(1)母子・父子福祉センターの使用許可に関する事 (2)母子・父子福祉センターの維持管理に関する事 (3)ひとり親家庭の父及び母並びに寡婦の各種相談に関する事 (4)ひとり親家庭の父及び母並びに寡婦に対する生活指導及び生業の指導に関する事 (5)ひとり親家庭の父及び母並びに寡婦の就業に必要な技能の講習, 研修に関する事 (6)その他知事が必要と認める業務	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	□ 有 ■ 無
	利 用 料 金 の 名 称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前年度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
開館(所)日数	246 日	245 日	246 日	100.0%	100.4%
延べ利用者数	2,500 人	2,325 人	2,211 人	93.0%	95.1%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前年度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
施設利用者	1,300 人	1,322 人	1,309 人	100.7%	99.0%
講習会参加者	1,200 人	1,003 人	902 人	75.2%	89.9%
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
合 計	2,500 人	2,325 人	2,211 人	88.4%	95.1%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前年度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
県指定管理料	17,930	17,930	17,930	100.0%	100.0%
利用料金収入	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
その他	1	11	0	0.0%	0.0%
収入計 (a)	17,931	17,941	17,930	100.0%	99.9%

(2) 支出

人件費	11,016	10,555	10,760	97.7%	101.9%
施設管理費	2,658	1,927	1,554	58.5%	80.6%
事業運営費	4,257	4,936	4,124	96.9%	83.5%
その他	0	523	1,492	#DIV/0!	285.3%
支出計 (b)	17,931	17,941	17,930	100.0%	99.9%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
前期繰越収支差額	—	—	—	#VALUE!	#VALUE!
次期繰越収支差額	—	—	—	#VALUE!	#VALUE!

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. 評価対象年度(平成29年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】				指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
	評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価	
①管理運営体制	1. 職員5人を配置し、業務を実施した。 ・職務内容(一部兼務) ・施設の管理責任者、防火責任者、経理担当職員、就業支援相談員、講習会事業支援員、電話相談員(日曜日の電話相談)を配置(常勤職員4人、非常勤職員1人) 2. 理事会(3回)、評議員会(2回)、監事会(会計監査)(1回)、会長、副会長会議(3回)、母子部長会議(2回)を開催し、適切な法人運営を図った。 3. 各種研修等受講 ・公益法人簡易セミナー ・公益法人会計セミナー ・自立支援センター職員研修会 ・改正職業安定法説明会 ・宮城県母子・父子自立支援員連絡協議会 4. 相談内容事例集の編集				・計画に沿い所定の役員会及び会議を開催し円滑な法人運営を図った。 ・外部の関係機関による研修会及び講習会等へ職員を参加させ資質向上に努めた。 ・過去の相談事例を編集し、冊子にまとめて職員の参考資料として活用した。		・法人運営を滞りなく行ったほか、職員の資質向上を図り、事業を実施していることから、より充実した相談体制が構築されている。	
人員体制	正規	4人	非正規	1人				
②施設・設備の維持管理業務の実施	・消防用設備保守点検業務(年2回) ・受水槽・高架水槽清掃業務(年1回) ・定期清掃(毎週月曜日) ・植木剪定、草刈り、排水溝清掃(各年1回) ・警備業務(毎日、当センターの無人時の機械警備)				・当センターの維持管理を事業計画どおり実施した。 ・相談室、研修室等のドア及び流しの排水管補修を行った。これによりセンター利用者の利便性向上を図った。		・安全、安心にセンターを利用できるよう、適切な維持管理が図られている。	
③運營業務(ソフト事業等)の実施	1. 母子父子家庭等就業・自立支援センター事業の実施 (1)就業支援事業の実施 ①就職・転職セミナーの開催 ・7回、69人参加 ②就業相談事業の実施 ・求職登録者数:49人 ・相談件数:478件 ・就職実績:20人 (2)就業支援講習会の開催 ①介護職員初任者研修:15人受講修了し、資格取得した。 ②パソコン(ワード2013、エクセル2013)40人受講修了、(36人マイクロソフト検定合格) ※就業支援講習会修了者に対して就業支援を行い、10人が就職した。 (3)ホームページによる情報の提供 就業支援講習会、職業紹介事業、各種相談事業に係る情報を随時提供した。 2各種相談事業の実施 (1)一般相談事業:245件 (2)日曜電話相談事業:47件 (3)法律相談事業:22件				・就職・転職セミナーを当センターで計画通り7回開催した。 ・必要に応じて随時各種講習会受講生の就業相談を実施した。 ・研修期間中は毎回研修日誌を作成し、研修講師、受講生、当連合会事務局との連携を図った。 ・日曜電話相談、法律相談も事業計画通り実施した。		・就業支援事業や各種相談事業等を開催することにより、ひとり親家庭等の就職につながるなど、事業計画は適切に実施されている。	
④自主事業の実施	1. 第55回宮城県母子寡婦福祉大会を開催し会員の研修を行った。(250名参加) 家庭学習法&教育相談会を併催した。(9月3日名取市文化会館。10月22日東北学院大学泉キャンパス) 2. 第61回東北・北海道地区母子寡婦福祉研修大会(9月30日、10月1日札幌市内)へ参加し、研修討議を通じて母子福祉制度について理解を深めた。(宮城県母連21名参加) 3. 楽天ゴールデンイーグルスホームゲーム観戦招待席数合計280席に対して265席の観戦希望があり昨年度より観戦率が3%ほど上昇した。 4. 新入学児童12名に抽選でランドセルを贈呈した。 5. 子育て、児童の学習、料理に関する図書、5種類×各2冊を抽選で10名に贈呈した。 6. NPO団体「お寺おやつクラブ」から食料品、希望するひとり親家庭へ配布した。 7. 日帰りバス旅行(那須塩原町)を実施し、抽選で39名(親16名、子供23名)が参加した。 8. 国立花山青少年自然の家からの要請により、ふれあい花山キャンプ(1泊2日)を2回開催し、参加者募集と当日の運営協力を行った。 合計56名の参加者があった。				・宮城県母子寡婦福祉大会では講演会を2講演行ったが、その講演記録誌を作成し関係行政機関や会員団体へ配布した。 ・行政や地元の母子福祉会との連携を図りながら事業を実施することができた。 ・親子交流事業について参加者から好評であり、次年度以降の事業計画にもつながりができた。 ・事業を通じて県母連の周知度を高めることができた。		・職員の資質向上や関係機関との連携強化を図るとともに、ひとり親家庭の福祉向上のため適切な自主事業を実施している。	

<p>⑤利用者サービスの向上</p>	<p>1. 各種講習の開催を日曜及び平日の2コースとし、受講希望者の利便性を配慮した。 2. 託児を行い、受講者の利便性に配慮した。 ※託児児童:延べ233人 3. 「県政だより」、「仙台市政だより」、「各市町村広報」、地元紙、地域FM放送、当連合会ホームページ、各ハローワーク、仙台市及び隣接市の児童館、県内の調剤薬局へも配置を依頼し、また各市町村母子福祉担当課を通じて講習会開催の広報を行った。更に地元のフリーペーパーへも広報を行い、昨年度より配布先数と配布数を増やし、研修事業等の周知を図った。 4. ホームページの更新に努め、常に最新の情報を提供した。</p>	<p>・平成28年度と比べて広報を充実させ、指定管理事業及び県母連事業のより一層の周知を図った。</p>	<p>S</p>	<p>・様々な広報媒体を活用し、事業の周知を図るほか、講習会においては託児を行うなど受講者の利便性の向上に努めている。</p>	<p>S</p>
<p>⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映</p>	<p>1. 就業支援講習会、就職・転職支援セミナー受講者全員にアンケートを実施し、事業内容について受講者の意見を把握した。セミナーのテーマ等を見直し、検討した。 2. 当センター利用者の苦情処理・解決に関する体制について周知した。 なお、平成29年度は苦情案件は無く、円滑に事業を執行できた。 3. 研修受講者、相談者、センターへの来館者の意見を把握するため、アンケート箱を常置している。</p>	<p>・アンケートの結果を集計・分析して事業のより良い改善、向上の資料とした。</p>	<p>A</p>	<p>・講習会等のアンケートや来館者の意見を集約して分析することなどにより、ニーズの把握や改善に努めている。</p>	<p>A</p>
<p>⑦安全対策</p>	<p>1. 防火管理者を選任し、また当センター内の防火に係る分担を決め、周知を図った。 2. 消防用設備の保守点検(年2回)、受水槽、高架水槽の清掃と水質検査(年1回)を実施した。 3. 警備会社に機械警備業務を委託し、夜間、休日におけるセンターの安全確保を図った。 4. 研修受講生に駐車場内での事故防止について周知した。</p>	<p>・事業計画通り事業を実施できた。</p>	<p>A</p>	<p>・事業計画に基づき、適切に事業を実施している。</p>	<p>A</p>
<p>⑧県民の平等利用</p>	<p>1. 就業支援講習会及び自主事業の開催に当たっては幅広く行政を始め関係機関への広報依頼先及び配布数を増やし、周知の充実に努めた。 2. 当連合会のホームページや地元紙、地元のフリーペーパー、地域FM放送へも広報を行った。 3. 就業相談、職業相談及び電話相談について幅広く広報を行った。</p>	<p>・関係機関と連携を図った。 ・ホームページの随時更新を図り、最新の情報を提供した。 ・年度末にはホームページのリニューアルを行い、より見やすいものに改めた。</p>	<p>A</p>	<p>・各種広報媒体を有効に活用し、利用者の利便性に配慮しながら幅広い情報提供に努めている。</p>	<p>A</p>

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	県の評価 【施設所管課記入】		
			評価	評価	
⑨個人情報の保護	1. 当連合会の個人情報規定に則り、個人情報の管理に努めた。	・適切な管理を行った。	A	・個人情報保護規程に則り、適切に事務が執行されている。	A
⑩利用実績	1. 上記「4. 施設利用実績」のとおり	・利用者の確保に努めた。 ・今後も広報活動に力を入れ利用者の拡大に努める。	A	・利用実績としては事業計画を下回ったものの、利用者の拡大に向けて広報活動等に努めている。	A
⑪収支実績	1. 上記「5. 管理運営収支実績」のとおり	・毎月の収支状況を点検し、適切かつ効率的な予算執行を図った。	A	・事業計画に基づき、適切な予算の執行に努めており、同程度の実績となっている。	A
⑫その他の取組	1. 宮城県第二総合運動場等に缶飲料の自販機を設置し、自主財源の確保を図った。設置場所を増やすため、新たな設置候補地の情報を収集し、現場確認や缶飲料自販機業者と調整し、設置拡大への取り組みを継続している。 2. 宮城県の「わが社のe行動(eco do!)宣言」制度の環境配慮実践事業者認定を受けていることから、継続してその実践に努めた。 3. ハローワーク・マザーズハローワーク及び県社協福祉人材センター等から情報を収集し、求職登録者へきめ細かい事業者紹介を行った。 4. 東北・北海道地区母子寡婦福祉研修大会へ当連合会から21名参加した。その研修大会の概要を当連合会会報及びホームページへ掲載し、内容について広報を図った。 5. 国立花山青少年自然の家及びみやぎ婦人会館と連携し、他団体主催事業への協力を図り、ひとり親家庭の親子の交流を図ると共に、県母連の広報を行った。 6. 当連合会事務局の職員給与規則、同就業規則、嘱託職員就業規則等を改正又は新たに制定し、事務局職員の勤務条件を明確にした。 7. 仙台市内のロータリークラブ例会へ出席し、県母連の活動内容やひとり親家庭の概況について説明し、ひとり親家庭への支援を要請した。	・ほぼ計画通りに実施できた。 ・関係機関との連携を図ることができ、次年度以降の事業に広がりが出来た。	S	・事業計画に基づき、適切な事業実施に努めている。 ・様々な機関と連携を図りながら、利用者支援の充実に努めている。	S
総合評価		・各項目ともほぼ計画どおり実施できた。 ・項目によっては計画以上の実行ができ、次年度へつながるものもあった。	A	・全体として良好に管理運営がなされている。各関係機関との交流・連携を図りながら、研修会への参加等により職員の資質向上に取り組むなど、ひとり親家庭支援の充実に向け積極的な姿勢が評価できる。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	1. センターの老朽化に伴い補修が必要であるが改修が進まないため県へ要望を継続して行く。 2. センター内の未使用部分があるので、改修や利用方法について県の担当課と連携しながら検討を継続する。 3. 現在の就業支援講習会の講習メニューの種類、内容を検証し、今後の対応策を企画提案して行く。 4. 法人の自主財源の確保に引き続き取り組む。また、自販機以外の自主財源確保の方法を引き続き検討する。 5. 他都道府県の同種施設の管理運営体制等を検証し、当センターの人員体制や予算規模、管理運営の在り方について検討する。	1. 引き続きひとり親家庭の自立促進に努めるとともに、支援の少ない父子家庭の父への適切な支援に努める。 2. 施設の老朽化対策及び未利用部分の活用について、建物の老朽化対策と併せてひとり親関連施策や施設目的等を総合的に考慮し、対応を検討する。 3. 効率的な施設運営を図り、適切な予算の執行に努めて組織体制の強化に努める。 4. 利用者拡大へ向け、受講者等のニーズに合った研修メニューや支援メニューを検討するとともに、広く県民に周知を行う。